

左から石神宇貴選手、坂本昂次選手、升川岳史選手

3人共ジュニアシーガルス出身で石神選手と坂本さんは同期生。笑顔から仲の良さが伝わってくる



ジュニアシーガルス出身! 千葉県出身の新人 升川選手と石神選手 インタビュー

8月6日、オービック習志野グラウンド(習志野市茜浜3-6-3)でオービックまっかわたけクシーガルス2017シーズン第3回公開練習が行われた。新人の升川岳いしがみたくき史選手と石神宇貴選手にオービックシーガルスについて聞いた。



新人チアによる自己紹介も。美しいだけでなく気さくにあいさつしてくれる優しいお姉さんたちだ

ジュニア時代からの 憧れオービックへ

升川選手は父親がオービックシーガルスOBだったこともあり小学5年からフライングフットボールを始め、ジュニアシーガルズの1期生だ。専修大学では副将を務めた。「歴代のスター選手の中で学ぶことが多い。早く、監督が安心して試合に出せる選手になりたい」と話した。石神選手は小学3年からジュニア入り、法政大学では主将だった。「石神はこれーという技術を手に入れて、みんなに喜んでもらえるプレーをしたい」と目標を語った。

練習は激しいタックルなど真剣そのものだが、練習後のフリータイムにはどの選手も笑顔で気さくにファンと交流してくれる。メリハリがあり、個性あふれるチームメイトがオービックシーガルズの魅力と二人は話す。アメフトを続けるなら絶対にオービック」と心に決めていたそう

迫力のプレーと雰囲気 を味わってほしい

「ジュニアチームでは技術だけでなく、プレーを楽しむことを教わった。それは今も生かされています」と升川選手。石神選手は現



公開練習後の交流会では、石神選手はじめ新人選手が紹介された

在、アメフトが起源のフライングフットボールを子どもたちに教えている。「身近なスポー

ツからアメフトを知ってもらおう活動も大切だと考えています」アメフトは一度観戦

してリピーターとなるファンが多いそうだ。「相手と激しくぶつかり合うプレーや選手の気迫、タッチダウン後のチームの一体感など、まずは試合の雰囲気味わってほしい」と両選手は話す。

オービックシーガルス習志野応援団長を務める織戸克久さんは「野球やサッカーといったスポーツの一つとしてアメフトも見てほしい。応援することで人のつながりができ、それはチームの支えだけでなく地域の力にもなります」と語った。新人選手の今後の活躍と共にアメフトを応援していきたい。

(まぢやぶつ)